

プロジェクトE研究成果報告書

城北キャンパスの樹木たち：その環境と文化

愛媛大学法文学部人文学科

近藤智絵子

齊藤優雅

岡田亜梨子

2010年4月

城北キャンパスの樹木たち：その環境と文化

目次

はじめに

I キャンパスの樹木たちとの出会い

1. 学内散歩からフィールドワークへ
2. 学生たちの声
3. 養育する側の声

II 注目の木：クスノキ、ユリノキ、タイサンボク

1. 城北キャンパスの上記 **BIG 3**
2. 各々の木が持つ物語

III 樹木たちと私たちとの将来

1. 活動の実り：地図『城北キャンパスの樹木マップ』, タグ, ホームページ
2. 反省
3. 展望

おわりに

参考文献・参考 URL

会計報告

付録：学生インタビュー、写真

はじめに

「あ、ビワがある」と、つぶやく。始まりは、そんな一言だった。

第一体育館の裏に、数本の樹木が並んでいる。入学して2ヶ月が経とうとしていたある日、私は、その樹木たちの中にビワの木を見た。ふだんから樹木に強い関心があったわけではない。たっぷりと茂った葉の隙間に、ふくらみかけたオレンジ色の実があった。実を見つけたことから、いつも目にするこの木がビワ、と分かったのだ。

その後、実は見事に熟れた。だが誰にも収穫されず、鳥たちの餌となってしまった。できることなら私は食べたかったのだ。くやしがるのは私だけではなかった。友人も、ビワの実を食べたかったのである。

この出来事を、先生に話してみたところ、興味を持ってくださった。さらに私たちは、第一体育館の裏に、ビワ以外に、栗やスモモなどの食べられる実をつける樹木があることも報告した。もちろん「木の実を食べたい」という気もあったが、馴染みのキャンパスに果物のなる木があることを知ってほしかったからである。実の他にも、美しい花や、おもしろい葉をつける樹木があることに、私たちは気づきはじめていた。

しばらくして先生が、私たちに、キャンパスの樹木たちについてフィールドワークをしては、と薦めてくださった。私たちは、カメラを持ち、キャンパス内の植物を観察しはじめた。それから間もなくして、先生からプロジェクト E の話を持ちかけられる。

これまでの散策がてらの植物観察から、1年を通して研究することに、私たちはワクワクした。観察を通して、木陰で休む学生、樹木に巣を作る鳥、花の蜜を運ぶ昆虫、日なたで昼寝する犬（主にハナちゃん）や猫に出会った。近頃、環境問題が連日メディアで取りあげられ、自然と人との共生が難しくなったといわれる中で、私たちは、キャンパスという身近な場所で、植物が、人、鳥、昆虫、その他の動物、建物、地面、空と深く関わりあっていることを学んだ。キャンパス内には、様々な記念樹や並木が存在する。これらの樹木は、誰が、どういった経緯で植えたのかも知りたくなった。1年をかけて、キャンパスの樹木や、樹木に関わる人々を観察することで、環境と文化の相互関係が見えるのではなにか、と考えたのである。

やがて私たちは、観察や研究だけでなく、樹木情報を発信することにした。なぜなら、多くの人にとって、キャンパスの樹木は、単なる風景の一部でしかないからである。私たちの情報発信により、人々が樹木に関心を持ち、キャンパス環境がより豊かになれば、と考えたのだ。

この報告書は三つの章からなる。第Ⅰ章では、樹木観察のフィールドワークや、樹木に関わる人々へのインタビューについて述べる。第Ⅱ章では、観察をとおして、特に印象に残った植物について、メンバーの思いや、詳しく調べたことを語る。第Ⅲ章では、活動の成果と反省、展望について述べる。

I キャンパスの樹木たちとの出会い

1. 学内散歩からフィールドワークへ

報告書のはじめにも述べたが、昨年の秋、城北キャンパスの北門から大学に入ってくると、ビワの実がなっていた。たわわに実ったビワは、スーパーで売られているものと比べても遜色はなさそうに見える。まず大学の敷地内に、食べられる植物が生えていることに驚く。そして、食べてみたいと思った。貧乏学生の私には、ビワのような高価な果物は、なかなか買えない。だが、さすがに勝手に取って食べてはいけないだろう、と思った。しかし、許可をとりたくても木の管理者が分からない。それに、ビワを食べてもいいですかなどと、恥ずかしくて聞けない。結局、何もしないまま季節は終わり、ビワは鳥たちが啄ばんでいた。

プロジェクト E を始めることになり、キャンパスの敷地内にある植物を、なるべく多く調べてみることにした。とりあえず、学内を歩き回ってみようということになった。毎日来ているキャンパスとはいえ、自分たちの学部棟の周辺や食堂など、意外と同じところを往復しているばかりで、きちんと観察してみたことはなかったことに、すぐに気づいた。あそこに、ここに、花が咲いているという程度には気がついて、それが何の花かまでは知ろうとも思わなかった。

キャンパス内を歩いてみると、意外に広い。それに、いろいろな植物が生えている。ビワが生えているところには、ビワの他にウメやカキなどが生えており、果樹園のようだ。人通りの少ない第三共用施設の裏には、アロエが荒々しく茂っている。教育学部の裏手には、実験的に植えられたのか、実に多様な植物が密生していた。またふだんから歩いていた、法文学部棟や図書館の周りの木には、高いところに、いくつか鳥の巣が掛かっていた。カラスの巣もあるらしい。私たちは小学生のように、はしゃぎながら植物の写真を撮った。キャンパスは意外なほど自然に溢れている。

こうして観察を続ければ、今までの活動をプロジェクト E でちゃんとした形にまとめて発表できる。こんなにたくさんの植物があることを、キャンパス中に知らせよう。そのためには、ただ単にキャンパス内を巡って写真を撮るだけでなく、同じ植物の四季の変化にも注目しよう。植物といっても広すぎるから、樹木に的を絞ろうか。もちろん、できるだけ多くの植物の名前や特徴も調べ続ける必要がある。あれこれ議論しながら私たちは、しっかりとしたフィールドワークとして成り立っていくように、さらに注意深く植物を観察するようになった。活動の範囲も、広げた。

今年の夏前には、他のキャンパスと城北キャンパスを比較した。同じ愛媛大学の樽味キャンパス、他大学として隣の松山大学、さらに高知大学を訪問した。植物の配置や解説のしかたやタグの付けかたなど、どのキャンパスでも違った驚きがあった。また「さらに教養を身につけるため」と誰かが発案して、高知の牧野植物園も訪問した。植物園と大学ではあ

り方が違うとはいえ、植物に対する姿勢に心を打たれた。

2. 学生たちの声

私たちは、学生がどのようにキャンパス内の樹木と付き合っているかに関心を持ったので、アンケート調査を行うことにした。調査は二回行った。第一回が2009年7月10日、第二回は2009年10月29日である。聴き取りの時間帯はどちらも12時から12時40分の間である。第一回は16人（男5人、女11人）、第二回は22人（男5人、女17人）、合計38人に回答してもらった。二回の調査ともに場所は二ヶ所で、①共通教育講義棟前と、②法文講義棟と図書館の間にした。これらの場所を選んだのは、昼休み時間に外で過ごしている人たちが多からだ。

質問は以下の三つである。

1. どうしてここで食べている（過ごしている）のか。
2. いつもここで食べている（過ごしている）のか。
3. 愛大にもっと樹木が増えたらいいか。

1の質問に対しては、学生食堂が混むから、外は気持ちがいいからという返答があった。

2の質問に対しては、いつもではないが、2限と3限がある時は学生食堂が混むので、外で食べるという人や、気候がいいときは外で食べるという人もいた。

3の質問に対しては、今でも十分という回答や、花があればなお良いという回答もあった。夏場などは、木陰が涼しくて嬉しいという意見もあった。

今回のアンケートで、外で食事をしている人が意外に多いということが分かった。芝生や樹木などの自然を身近に感じながら食事をするので、天気の良い日などは外で過ごしたいと思っている人がいることも分かった。花があれば良いという回答は、私たちプロジェクトメンバーが想定していなかったものだ。今回のアンケートは、新しい発想を得る良い機会になったと思う。

3. 養育する側の声

城北キャンパスの植物について調べるにあたり、管理している人々の声も聞きたいと思い、11月11日にインタビューを行った。話を聴かせていただいたのは、施設基盤部安全衛生管理室の宮竹邦浩さん、中山幸一さんである。質問と答えの内容は以下ようになった。

○学内の剪定や草むしりをしている人はどういった人々なのか

・剪定：施設基盤部から植木屋に依頼。並木以外は、各学部からの要請があれば行なう。

→昭和60年代までは、学内の植物を一括で管理する園丁がいたそうだが、今はいない。

施設基盤部は、学内の施設を管理し、破損があれば修理を行なっている。植物を専門にはしていない。しかし、学内の樹木については一本一本まで把握し、管理している。

・草むしり：業務支援課が学生の経済援助のためにやっている（学生アルバイト）。

また、職員がオープンキャンパス前の一斉清掃時にも行なう。オープンキャンパス前は学生支援課から各サークルや学部へ声をかける。

→学生の経済支援と、学校の清掃活動を兼ねるのは、すばらしいと感じた。オープンキャンパス前の草むしりは、ボランティアである。私たちの所属する法文学部は、毎年参加していないという。これを期に、学生である私たちから声をかけようと思う。

○愛大に樹木を植えたのは誰か。どういう基準で植える樹木を決めたのか。

・すでにある樹木に関しては分からない。ただ今後、木を植えるとすればキャンパス景観委員会の話し合いによって決められる。

→キャンパス景観委員会は、新しい施設が建てられる時や、樹木を植える時に、その景観について話し合う委員会。施設基盤部や、それぞれの学部の代表が集まる。

上記の内容以外にも、貴重なお話を聴くことができた。施設基盤部は、学内の施設と植物を一括で管理している。限られた予算や条件の中で、植物を今以上に充実させるのは難しいようである。しかし、私たち学生が、今回のようなプロジェクトで活動をすることで、変えられることもあるのではないかと思う。

II 注目の木： クスノキ， ユリノキ， タイサンボク

プロジェクトEの調査では、キャンパス内において個体数が多く、特に目立つ三種類の木に注目した。クスノキは特に数が多く、日本を代表する木でもあるため選んだ。ユリノキは背の高さで目立っており、花も見たら忘れられない特徴を持つので選んだ。タイサンボクは並木を作っていて、白い大きい花が美しいので選んだ。

この章の1では、城北キャンパスの上記BIG3について、それぞれの木に当たり、調査の中で私たちが感じたことを書いた。章の2では、BIG3の各々が持つ物語について、文献に当たって調べた。ここでは、各々の木が持つ特徴やエピソードを紹介する。

1. 城北キャンパスの上記BIG3

クスノキ

城北キャンパスでクスノキは実際に、どこに生えているのだろうか。敷地を取り囲むように生えているのだ。合計で50本ほど植えられている。生協食堂の向かいの駐輪場には、大きなクスノキが4本あり、夏には涼しい木陰を提供している。



(2009/07/31)

また、共通教育講義棟の出入り口の横にも、大きなものがある。多くの人が気づいているはずだ。初夏には鮮やかな新芽が茂り、力強い生命力を感じさせる。

常緑樹なので、冬も枝には葉がたっぷりある。



←共通教育講義棟の横
(2009/06/19)

ユリノキ



上の写真は背の高いユリノキのものである。一回生の頃は、この並木を見ても、木が生えているという程度の認識しかなかった。学内にある他の木々、特にアメリカフウとの区別さえついていなかった。

だが、プロジェクトに参加した私は、パイロット・プログラムとして学内をしっかりと見て回るようになった。すると木々の差異に気づき始めた。共通教育講義棟の西側と東側の木では葉の形が違う。初めて、違う木々が存在しているのだと気づいた。

プロジェクトが進み、ふだんから木々を意識して見るようになると、更にいろいろなことに気づいた。実の形が違う。花が違う。葉も色が違う。木の肌が、木の高さが、幹の太さが、枝の付き方が、紅葉の仕方も違う。同じところなんて殆どなかった。実に様々な木が生きていた。

後に調べたことだが、ユリノキはモクレン科で、マンサク科のアメリカフウとは科からして違うのだ。ユリノキと同じ特徴などあるわけではない。

右の写真は、五月に撮ったユリノキのものである。茂った葉に交じって、花が見える。英語での名前のおりチューリップそっくりの形をしている。色はオレンジの上に黄緑色。花にしては珍しい配色だ。花が咲くこと自体、以前は知らなかったが、今では初夏が楽しみである。



タイサンボク



タイサンボクがもっとも人目を引く時期は、花が咲く6~7月にかけての時期である。深い緑の中に、真っ白な花がよく映える。別名の、大きい「さかずき」を表す「大蓋木」とはよく名づけたものである。図2がタイサンボクの花である。9枚の花びらが並ぶ姿は、大きな「さかずき」にそっくりだ。

花の寿命は1週間程度である。花びらをいっぱい広げて太陽に向かい、堂々と咲く姿は、儂さを感じさせない。むしろ力強い。花びらの最後の1枚が落ちるまで、凜としている。この花を見たとき、私は、このタイサンボクのファンになった。



図2. (2009/07/03)

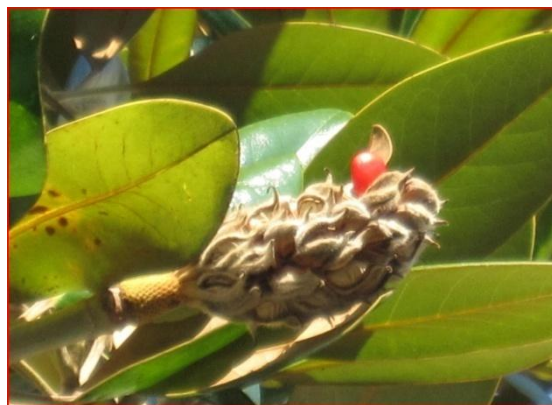
観察していると、タイサンボクは、同じ1本の樹木でも、花が咲く時期が異なることが分かった。図3は、タイサンボクの実とつぼみで、どちらも同じ木にできたものである。



図3. (2009/07/03)

図3. (2009/07/03)

実は、秋に赤い種を出す。図4がその写真である。



これもまた、見ものだった。

図4. (2009/11/06)

2. 各々の木が持つ物語

クスノキ (楠)

・クスノキ科 クスノキ属

・学名 *Cinnamomum camphora*

・名前の由来

クスは「臭し」と同源という説がある。

「楠」は南国から渡来した木の意。

別の漢字として「樟 (くす)」がある。

“camphor tree”英名。“camphor”とは樟脳の意味で、防虫剤として使われている。

・原産地

中国とされている。

・特徴

高さ 15~20m、ときには 30m 以上にもなる常緑高木。本州・四国・九州の暖地に広く生育するが、樟脳の原料や木材として利用するため古くから植えられてきた。神社の境内、公園、校庭などに広く見られる。

葉は互生し、無毛、卵形で先が尖っている。表面は緑色で光沢があり、裏面は黄緑色。木全体から、タンスの虫除けなどによく使われる樟脳の匂いがする。樹皮には細かい割れ目が多い。花期は 5~6 月。黄白色の小さい花を咲かせる。果実は球形で、秋に黒く熟す。

・日本との関係

各地にクスノキに関する民話は多い。これは、クスノキが古くから人々に愛されてきたという証と思われる。下に印象深かった民話の一つを紹介する。蟻通神社の楠についてである。

蟻通神社の楠 (大阪府)

田辺市湊の蟻通神社には大きい楠がある。昔、この近辺に大火があったとき、不思議にもこの楠の枝葉から、さかんに白水が噴き出て延焼を食い止めたという。また、この楠の枝が社殿の上に伸びてきたので、伐り取ることになった。木こりが木の上のぼったが、すぐ降りてきて「金の幣が目の前にきて、挽くことができん」と告げる。二、三人替わってやってみたが同じことであった。最後に登った木こりが、無理に鋸を入れたとたんに、木から落ちて大怪我をしたという。



参考文献, 参考 URL (福井・栗原, 2008), (<http://kamnavi.jp/kinokuni/minwa/kami4.htm>)
 〈クスノキの項は齊藤が担当〉

ユリノキ (百合の木)

- ・モクレン科 ユリノキ属
- ・学名 *Liriodendron tulipifera*

“Liriodendron” : ユリノキ属

“tulipifera” : チューリップ形の花の咲く

- ・名前の由来

学名の「*Liriodendron*」は、ギリシャ語の「leirion (ユリ) + dendron (樹木)」が語源。

ユリに似た花の樹木、の意味から。

「半纏木 (はんでんぼく)」葉の形から。

「奴胤 (やつこだこ) の木」葉の形から。

「軍配 (ぐんばい) の木」葉の形から。

“tulip tree”英名。花の形から。

「ローソクの木」実の形から。

- ・原産地

北アメリカ中部。

- ・特徴

成長が速く、街路樹・庭木・公園樹・蜜源植物として利用され、良質の蜂蜜が得られる。花自体が高所にあるために確認するのが難しいが、ガクの部分にスプーンですくえるほどに蜜が溜まっていることもある。

葉は薄くて硬く淡緑色で平滑。浅く掌状に2~4つに裂ける。先は凹形。

5~6月頃、チューリップに似たオレンジの斑紋のある淡い黄緑色の花を咲かせる。

果実はローソクの炎のような形状をした集合果。細長いへら型の翼果は、秋から冬にかけて飛散する。

木材としては、器具・建築・合板・楽器などに利用される。先住アメリカ人はこの木でカヌーを作った。



主図：ユリノキの実

- ・日本との関係

日本には、明治初年、東京大学の植物学者伊藤圭介によって日本で最初に導入された。伊藤は、来日中のアメリカの植物学者デービット・モレー博士からユリノキの種子を貰い受けた。東京の自宅で育成し、その苗木を新宿農業所(現新宿御苑内)に植え付けたと言われている。小石川植物園の看板には明治23年、のちの大正天皇が皇太子の頃、そこにあるユリノキ種の木を見て、その木を「ユリノキ」と命名したとされている。それまでは、チューリップの木やハンテンボクと呼ばれていた。

参考 URL

(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A6%E3%83%AA%E3%83%8E%E3%82%AD>)

(<http://www.hana300.com/yurino.html>)

(http://www.geocities.jp/plants_name/yurinoki/yurinoki.htm)

〈ユリノキの項は岡田が担当〉

タイサンボク (泰山木)

- ・モクレン科 モクレン属
- ・学名 *Magnolia grandiflora*

“*Magnolia*”：18 世紀のフランス、モンペリエの植物学教授である

「Magnol 博士」の名前から

“*grandiflora*”：大きい花の

- ・名前（日本名）の由来

「泰山木」 樹形が中国の泰山のように立派だから。

「大山木」 樹形が大きな山のような姿を示すから。

「大蓋木」 開いた花が蓋（さかずき）に似ているから。

- ・原産地

北アメリカ。分布は、フロリダ半島を中心にしたメキシコ湾沿岸の亜熱帯地域。とくに、ミシシッピ河や、湿地の周辺などが分布の中心である。



- ・特徴

高さ 10～20 メートルほどの樹木で、分厚く硬い大きな葉が特徴。卵型の葉の直径は 20 センチほどで、裏側へそり返っており、深い緑色をした表面には光沢がある。裏面は赤茶けた色をしており、薄い毛におおわれている。

6 月～7 月の梅雨時期に、モクレンに似た白い大きな花を咲かせる。近づけば、さわやかな香りを楽しむことができる。花の大きさは、20 センチほどで、花びらは肉厚である。花の寿命は、1 週間程度。

- ・日本との関係

1879 年（明治 12 年）、アメリカ大統領のユリシーズ・グラントが来日したとき、彼の妻が記念に新宿御苑に植えたのが最初といわれている。その木は今も育っているが、種類は変種のホソバタイサンボクである。

・短歌に見えるタイサンボク

タイサンボクは、夏の季語である。この木の花を詠った短歌として、以下のものがある。

「ゆふぐれの 泰山木の 白花は われのなげきを おほふがごとし」 齊藤茂吉
梅雨時分の晴れ間、白い花は、水滴を浴びてなお、凜としたたずまいを見せる。その姿は、手のひらを大きく広げているようにも見える。茂吉は、白く美しい手のような花が、自分の「なげき」を覆ってくれると感じたのだろう。

参考 URL

(<http://www.ne.jp/asahi/osaka/100ju/index.htm>)

(<http://www.tamano.or.jp/usr/miyama/miyamasiki/taisanboku.htm>)

(<http://blog.livedoor.jp/miku861/archives/55087270.html>)

(http://plumkiw948.at.webry.info/200906/article_21.html)

(<http://had0.big.ous.ac.jp/plantsdic/angiospermae/dicotyledoneae/choripetalae/magnoliaceae/taisanboku/taisanboku.htm>)

(http://gazo.cocolog-nifty.com/my_tiny_flower_garden/2009/06/post-5e5b.html)

〈タイサンボクの項は近藤が担当〉

Ⅲ 樹木たちと私たちとの将来

1. 活動の実り

A. 地図『城北キャンパスの樹木マップ』

私たちは、2009年1月から、キャンパス内の樹木を観察し、少しずつ樹木の分布状況を把握してきた。活動のまとめとして、キャンパスの樹木の分布が把握できる、わかりやすい地図を作成した。作成を始めたのは1年後、2010年の1月からである。地図で紹介する樹木は、下記Bで述べる「タグ」を付けたものに絞ることにした。

まず、地図の形式を決めた。単に樹木の場所が把握できる、というだけでなく、樹木それぞれの個性を説明する地図を作りたかった。また、親しみやすく、暖かみのある地図にするために、イラストを多用し、手描きの説明を作成することにした。ポップで明るい雰囲気のある地図にしようと、皆でアイデアを出し合った。

最終的に、図1のような形にする。図1のキャンパス見取り図の周囲に載せるイラストや説明は、3人で相談しながら分担した。イラストは、それぞれが手描きで作成したものを、スキャナで取り込んでレイアウトした。特に私たちの思い出が強いBIG3（Ⅱ章参照）は、説明のスペースを大きくとった。

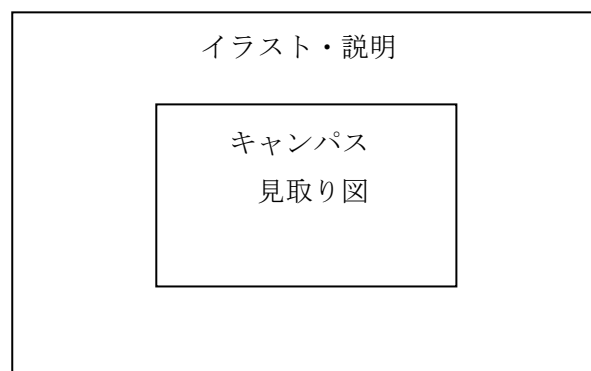


図1

中心となるキャンパス見取り図は、なるべく簡略化し、わかりやすいものにしようと心がけた。見取り図上の樹木は、オリジナルのアイコンを考えて表現した（図2）。ひと目見ただけで、その樹木が何かを知ることができるように、アイコンを工夫した。

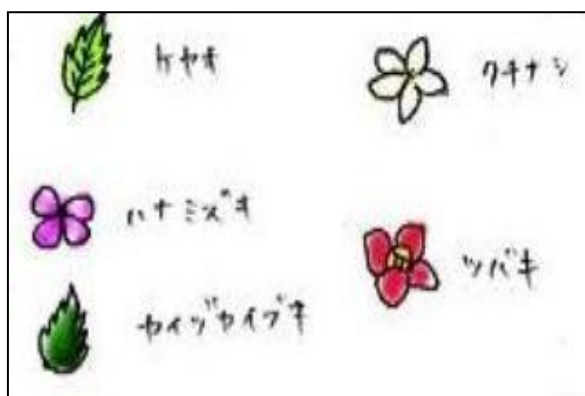


図2

次ページが、できあがった地図である。地図の名称は「城北キャンパスの樹木マップ」。学生や、大学にやってきた人が「この樹は何だろう」と気になるとき、利用できる地図になるよう努力した。この地図をきっかけに、キャンパス内の樹木に興味を持ってもらえたら嬉しい。

城北キャンパスの樹木マップ

カサバネ
オトコトカガシバ
印象的の紅葉!
エリノキとカサバネは、秋には互いに紅葉成り!

カサバネ
5~6月に
黄白色の
山吹い花を
咲かせる。



ハナシズキ
米ロシト州の王!
うんちんはin 30m
カサバネ

カイヅカイナギ
どっぴりしたおど
か強いな木...
強風だとど
あふられてしまう。

2111
花の形がフユウギに
似ていることから、
フユウギの木と
呼ばれる。



カサバネ
12~3月に
淡い黄色の花が
つぎ!

タサシロク
6~7月に大正白の
花が咲きます!



カサバネ
これは何!?
...カサバネです!
紅葉したら
スゴイ。

カサバネ
11月~5月に
赤い種が!
見わたります!

B. タグ

通いなれたキャンパスでは、あらためて木に注目することは少ない。しかし、ここにはたくさんの木が生きていて、私たちは新緑の葉や紅葉、花や実を楽しむことができる。プロジェクトを始めてからは、以前よりも木に注目するようになり、私たちの心はより豊かになった。それなのに、他の多くの人がこの楽しみに目を向けないのは、もったいないと思った。

キャンパス内を見て回ったとき、トネリコという木に、説明のタグが付いているのを発見した。調べてみると、愛媛大学の樽味キャンパスや、隣の松山大学の木にも、タグが付けられていることが分かった。タグがあると、学生が木に注目するのではないだろうか。そして、身近に緑があることを意識してもらえるのではないだろうか。

私たちは、城北キャンパス内の主な木に、タグを付けることを計画した。タグには、樹木の名前や学名、興味を引くような一言コメントを載せることにした。例えば、ケヤキの場合は「4～5月に淡黄色の花を咲かせる。実は褐色に熟す」といった一言である。

タグを付けようとして計画したのは、全部で15種類。施設基盤部の方々やキャンパス景観委員会の承認を得て、付けることができた。2010年1月8日と1月9日、同年4月21日に付けた。

タグを見て、多くの人々がその木を改めて知り、好きな木を増やし、木々が見せる四季の変化を楽しんでくれたら良いと思う。



法文学部棟前のケヤキ
(2010/01/08)

C. ホームページ

私たちの活動を多くの人に発信するため、ホームページを作成した。城北キャンパスの樹木マップや、活動中に撮影した四季の写真を掲載している。トップページ、地図上のアイコンをクリックすると、それぞれの木について情報を見ることができる。Ⅱ章で紹介したBIG3に関しては、詳細な情報を載せている。今後も更新を続け、BIG3以外の情報や、紹介する木の種類も増やしていきたい。掲示板なども設置し、木の情報交換もできるようにしたい。URLは下記の通りである。

<http://www.justmystage.com/home/projecte/PEhomepage.html>

2. 反省

プロジェクトを推し進めるにあたり、いくつかの目標や調査・研究計画を立てた。その中で、実行できたのは、これまで報告してきた以下の項目である。

- ・ 学内と学外におけるフィールドワーク
- ・ 主な樹木に対する文献調査
- ・ 木を説明するタグの作成と取り付け
- ・ 地図「城北キャンパスの樹木マップ」
- ・ 樹木情報を提供するためのホームページ

一方、計画した全てを実行できたわけではない。実行できなかった数点を以下に述べる。

- ①QR コードによる樹木の情報提供
- ②樹木「文化」情報のファイリング
- ③樹木のための環境調査
- ④他学部生との樹木環境の共同調査
- ⑤樹木と動物・昆虫との関係について

① 樹木にタグを付ける際、QR コードを付けて、より一層詳しい木の情報を発信したかった。アクセス件数で、どれくらいの人がタグを見ているのかが分かるというメリットもある。しかし、QR コードを作るには至らなかった。

② 樹木たちの文化、物語群、歴史を調べてファイルすることも計画していた。参考として先生が、例えばタイサンボクをアフリカ系アメリカ人がどのように表象しているかを教えてくださいました。他の樹木に関しても、暮らしでの活かし方、物語や神話、世界の詩歌や散文で詠まれたり歴史に関わったりした、多くの例を調べることができたら良かった。

③ ときどき学内で、吸殻やゴミのポイ捨てが見受けられる。そういった行為は、人体だけでなく、樹木にも悪影響を与えていると思われる。その影響を調べて、キャンパス内の人々に、マナーの徹底を呼びかけることができれば良かった。

④ 法文学部だけでなく、理学部、工学部、医学部、教育学部、農学部の学生にも呼びかけて、共同調査ができれば良かった。そうすれば、もっと違った視点からも調査ができたと思う。

⑤ 私たちは調査中、鳥の古巣を木の上に見つけた。鳥が戻ってくるかどうかを観察した。だが、その姿を見ることはなかった。学内には、鳥のほかに、猫や犬などの動物、蝶や蜂などの昆虫が多くいる。さらに、肉眼で見えない、ものすごく多くの動物や植物も生きている。猫や犬は、講義棟横の植え込みで、気持ちよさそうに寝ている姿を見かけた。花が咲いているところには、蜜を目当てに、蝶や蜂が来ている。だから植物が、動物や昆虫と、

どのように関わっているのかを詳しく調べたかったが、観察するにとどまった。しかし、キャンパス内で、動物や昆虫が植物と共存する姿を見ることができて、すばらしいと思った。

3. 展望

まず、樹木にタグを付けたからには、QRコードを付ける方向にすすみたい。QRコードを利用して、今回の活動で作成したホームページにリンクできるようにしたい。そうすることで、より詳しい樹木の情報（季節ごとにどんな変化を見せるのか、どんな形の実をつけるのか、など）を得て、発信することができるだろう。

フィールドワークをとおして、野生の雑草や、美しい花壇がキャンパス内にあることを知った。今回はキャンパス内の「樹木」に焦点を絞ったが、今後はその他の植物にも注目したい。

樹木を観察していると、キャンパス内に、さまざまな鳥や虫が生育していることが分かった。そうした生き物たちが、樹木や植物とどのように関わり、生きているのか、観察を続け、研究していきたい。

また、学内で見受けられる、ゴミのポイ捨てや、喫煙マナーについても、学生たちに呼びかけていきたい。人体だけでなく、植物や他の動物への影響を調べながら、キャンパス内の環境をより良いものにするために、声をあげていきたい。

私たちが活動をはじめたきっかけは、「ビワを食べたい」という子どもっぽい願望だった。キャンパス内には、ビワやスモモなどの果樹だけでなく、ヨモギやワラビも生きている。ファーストフードや加工食品ばかりを口にしがちな私たちだが、自然の味を味わうことで、食生活や健康の向上にもつながると思う。食べられる野草の観察と利用についても、提言していきたい。

今後は、得た情報を、キャンパスにかかわりのある人たちに広く提供したい。そして、より良い環境にしていくために、より多くの人々の意見を聞き、共に知見を得ながら活動していきたい。

おわりに

私たちは、城北キャンパスに、興味深い木々があることに気づいた。そして、その樹木たちをもっと知りたい、もっと人々に樹木たちを知ってほしい、とこれまで活動をしてきた。目標どおりの活動ができなかったこともあったが、活動をとおして樹木たちの魅力を再確認することができた。

また、キャンパス内の人々にインタビューを行い、人々の樹木に対する関心を知った。施設基盤部の方々にもインタビューを行い、樹木の管理状況について学んだ。他の人々の、樹木に対する意見を聞くことで、新しい意識を持つことができた。さらに、人々に樹木情

報を発信するため、主な樹木にタグを付けた。今はまだ小さいが、ホームページも作った。この活動はプロジェクト終了後にも、広げていきたい。

私たちの活動の結果、キャンパスの樹木に、関心を持つ人が増えてくれることを望んでいる。樹木や、その周りの環境に目を向けるようになれば、自然とゴミやタバコのポイ捨ても減ると思う。そうすれば今、建物も美しく変わろうとしているキャンパスの環境は、もっと良くなるだろうと考える。そして学内での行動は、地域にも広がっていくだろう。私たちの小さい活動が、そのきっかけとなれば嬉しい。

謝辞

たくさんの人々の温かい協力によって、このプロジェクトを進めることができました。インタビューに答えてくださった方々、施設基盤部の方々、学務の方々、守衛さん、色々と相談に乗ってくださったリーダー養成能力開発室の松本さん、指導教員の望月先生、フィールドワーク中に出会った人々、その他、このプロジェクトに関わってくださった全ての方々に、感謝の意を表します。

参考文献

林将之、2008年、「葉っぱで調べる身近な樹木図鑑」、株式会社主婦の友社
福井希一・栗原佐智子（編著）、2008年、「キャンパスに咲く花 阪大吹田編」、
大阪大学出版会
松井宏光、2002年、「四国の樹木観察図鑑」、愛媛新聞社

参考 URL

フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A6%E3%83%AA%E3%83%8E%E3%82%AD>
花々のよもやま話／ウェブリブログ
http://plumkiw948.at.webry.info/200906/article_21.html
紀の国の民話・昔話・伝承
<http://kamnavi.jp/kinokuni/minwa/kami4.htm>
季節の花 300
<http://www.hana300.com/yurino.html>
My Tiny Flower Garden

http://gazo.cocolog-nifty.com/my_tiny_flower_garden/2009/06/post-5e5b.html

ミクブログ <http://blog.livedoor.jp/miku861/archives/55087270.html>

岡山理科大学 総合情報学部 生物地球システム学科 植物生態研究室（波田研）HP
<http://had0.big.ous.ac.jp/plantsdic/angiospermae/dicotyledoneae/choripetalae/magnoliaceae/taisanboku/taisanboku.htm>

大阪府立大学名誉教授・大阪自然環境保全協会理事 佐藤治雄 『大阪百樹』
<http://www.ne.jp/asahi/osaka/100ju/index.htm>

世界の植物－植物名の由来－ 高橋俊一
http://www.geocities.jp/plants_name/yurinoki/yurinoki.htm

玉野市公園緑化協会・岡秀雄：「深山の四季」
<http://www.tamano.or.jp/usr/miyama/miyamasiki/taisanboku.htm>

会計報告

平成21年度愛媛大学「学生による調査・研究プロジェクト(プロジェクト)」

研究課題 近藤 智絵子

『城北キャンパスの樹木たち:その環境と文化』

1. 調査・研究期間:平成21年6月 ~ 平成22年3月末
2. 研究成果報告書提出期限:平成22年4月末日
3. 研究成果発表会:平成22年度前学期(開催日は後日決定する)

請求日	納品日	品名
2009.6.16	2009.6.17	ノート(セミ B5 サイズ)
2009.6.16	2009.6.17	プリンター(A4/30 穴)
2009.6.16	2009.6.18	ソニーステレオ IC レコーダー(1GB UX71(ホワイト))
2009.6.16	2009.6.18	デジタルカメラ(canon IXY DIGITAL920IS)
2009.6.16	2009.6.19	書籍『葉っぱで調べる身近な樹木図鑑 この木なんの木?街路樹、庭樹、公園の木がわかる!』
2009.6.16	2009.6.22	書籍『四国の樹木観察図鑑 葉で引く(自然博物シリーズV)』(松井宏光 著)
2009.6.16	2009.6.29	書籍『キャンパスに咲く花 阪大吹田編』(福井希一・栗原佐智子 編著)
2009.7.13	2009.7.16	名札(緑) NF-451-G
2009.7.13	2009.7.16	USBメモリスティック I・Oデータ TB-AT8G/8
	2009.10.31	旅費 (高知 9/23~9/24)
	2009.12.2	メンディングテープ COOP CO-MD-18C
	2009.12.2	付箋紙 COOP CO-M-2-B/Y/P/G
	2009.12.2	クリヤブック COOP SB-R420DM/B
	2009.12.2	キーホルダー キング NO.735T10
	2009.12.2	ボンド コニシ G17
	2009.12.2	マグタッチ ベロス MSB-235
	2009.12.2	防火マップ エレコム T-F3650WH
	2009.12.3	ラミネーター アイリスオオヤマ LTA42E

付録

1. 『I章2. 学生たちの声』 における学内インタビュー全文

計 22 人 (男 5 人、女 17 人) 12:00～12:40

各質問の内容は以下の通りである。

Q1：どうしてここで食べている（過ごしている）のか。

Q2：いつもここで食べている（過ごしている）のか。

Q3：愛大にもっと樹木が増えたらいいか。

共通教育講義棟前

1、女性 2 人、1 回生、弁当

Q1：2,3 限がある。学食が混むから。

Q2：2,3 限があるときは大体ここで。

Q3：今でも結構多い。掃除が大変そう。種類が増えたら楽しい。

2、女性 3 人

Q1：ここで過ごす。寒くないときは。

Q2：ベンチがあるから。なんとなく。

Q3：木があると夏とか、影ができるからいい。木は多いほうだと思う。

3、女性 3 人

Q1：風が気持ちいいから。

Q2：たまに。さっき共通で授業があったから。

Q3：木陰があったらいいな。

4、男性1人

Q1：友達がいるから。

Q2：微妙。学食、家で。

Q3：もう十分。

5、女性3人

Q1：時間がないから。

Q2：今日は時間がなくて、食堂は混むから。

Q3：あったほうがいい。

6、女性3人

Q1：学食が空くのを待っている。今日は外があったかい。木陰にいたい。

Q2：だいたい室内。

Q3：夏は思う。花壇があったらいい。

法文—図書館

7、男性3人

Q1：今日は学食が混んでいるから。

Q2：時々。夏と冬以外は。

Q3：ここら辺は多い。共通講義棟の前にほしい。

8、男性1人

Q1：学外で買うので、学食に行きづらい。

Q2：まあ、ここで。

Q3：足りている。

9、女性1人

Q1：気持ちいいから。

Q2：晴れていたら外で。

Q3：大学は多いほう。もっとあったら。

10、女性2人

Q1：誘われたから。

Q2：いつもではない。気候がいいので。

Q3：増やして欲しいとは思わないが、あったらいいと思う。

2. 写真

私たちは、樽見キャンパス・松山大学・高知大学・牧野植物園でフィールドワークをおこなった。ここでは、その際に撮影した写真のいくつかを紹介する。

○農学部樽見キャンパス（2009年8月12日）



↑樽見キャンパスには、大きな木が多い。
この木も、4階建ての建物より背が高く、幹も太い。



あらかし

(ぶな科)
Quercus glauca Thunb.
分布＝本州の宮城県南部以西から九州・
ネパールまで・暖帯 関西の庭木に多い



メタセコイア

アケボノスギ (すぎ科)
Metasequoia glyptostroboides
Hu et Cheng
分布＝中国四川省・湖北省 昭和24年渡来
生ける化石植物として有名 秋に落葉する

↑樽見キャンパスの樹木たちにはタグがついていた。





←樽見キャンパスには、数種のユーカリの木がある。写真は正門に入ってすぐ右手にあるユーカリ。

→羊。草の上にぼんやり立っていたため、思わず撮影した。



←樹木への愛情を感じずにはいられない看板。駐車場の植え込みに設置されていた。

○松山大学（2009年8月13日）



←松山大学の正門。よく見ると、ピンク色の花が植えられている。



↑正門を入ると、イチョウ並木が目に飛び込んでくる。タグが付けられていた。

→キャンパス中央にある噴水。そばにはベンチもあり、ちょっとした公園のようである。





←建物と建物のすき間にある通路にも、木や植物が植えられている。

→木陰にもベンチが並んでいる。



←きれいに剪定された植え込み。あまりに美しい直角だったので、撮影した。



↑→広島で被爆したアオギリの2世。
2006年4月、松山大学生協学生委員会が平和活動の一環として植樹を行ったそうだ。



○ 高知大学 (2009年9月24日)



→正門をくぐると、すぐに背の高いシュロの木と対面した。高知では、街のいたる所にシュロがあった。





←シュロの根元にはパラソルとベンチがあった。学生たちの憩いの場となっているのだろうか。



→中庭にもベンチがあった。野外の休憩スペースが多いように感じた。



←駐輪場の屋根におおいかぶさるように枝が伸びてきている。とても涼しげだ。



←たまたま手入れしていなかったのか、大学の方針なのか、野草がのびのびと育っていた。

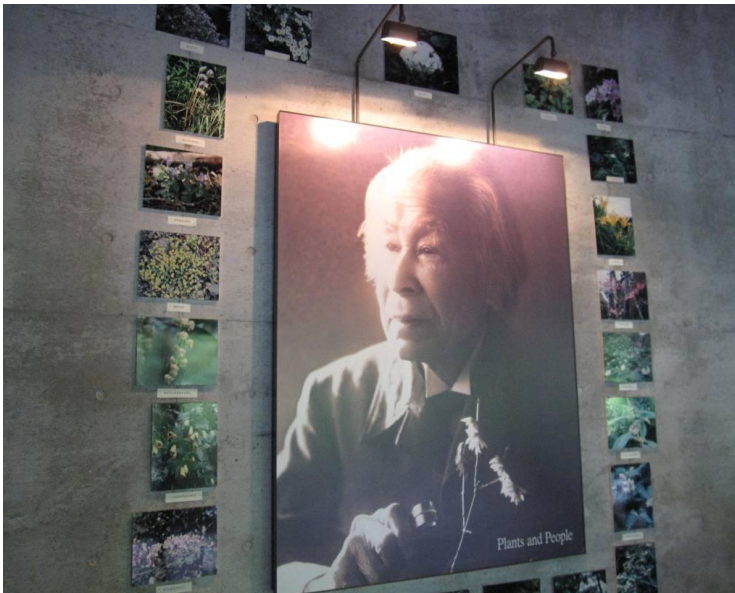


↑樹木には、立派なタグがついていた。



←建物の前に2本の大きなフェニックスが。シュロと同様、南国ムードをただよわせる木である。

○高知県立牧野植物園（2009年9月23日）



牧野植物園は、日本における植物学の祖である牧野富太郎博士を顕彰して、高知県の事業として建設された。高知県の植物を中心とした、約 1500 種の草花を見ることができる。

↑ 牧野富太郎博士の写真





←目をやった先に必ず植物があり、なおかつ、それらを解説するタグが、一つひとつに付けられている。

→美しい小川を取り囲む植物にも、丁寧にタグが付けられている。



↓目の前に広がる風景中にある、山や土地の名前を確認できる看板。

